

まほろん

通信

Shirakawa since 2007



まほろん20周年記念企画

『戦後ふくしまの考古学』

—福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行まで—

新収蔵資料紹介 「伊達市荒屋敷遺跡出土の磬^{けい}」

まほろん森の塾 活動レポート

思い出まほろん 「まほろん開館の頃」



まほろんでは新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組んでいます。
特に体験活動については、職員との接触や近距離での活動を控えています。
ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。



『戦後ふくしまの考古学』

—福島県学生考古学会の発足から福島県史の刊行まで—

文：廣川 紀子（主任学芸員）

今回の展示では、故目黒吉明氏（元福島県考古学会長、元福島県文化センター遺跡調査課長）の調査資料などに基づき、昭和 20 年代から 40 年代にかけての考古学的調査と埋蔵文化財保護の経緯をふりかえります。

1945（昭和 20）年に太平洋戦争が終結すると、日本での旧石器文化の存在が証明された群馬県岩宿遺跡の発見や、水田を伴う弥生時代集落が明らかになった静岡県登呂遺跡の調査などを契機に、空前の考古学ブームが訪れました。福島県内でも、各地の高校に歴史研究クラブが設立され、遺跡調査を通じて郷土史を明らかにする動きが盛んになりました。1949（昭和 24）年には「福島県学生考古学会」が設立され、その卒業生たちが原動力となって 1955（昭和 30）年に「福島県考古学会」が発足します。彼らの努力は、当時まだ十分ではなかった自治体の文化財保護行政を、縁の下から支えていました。

ここでは調査年順に、展示予定の一部を紹介します。

背景：安達高等学校 発掘遺物調査書

昭和 20 年代 福島県学生考古学会の設立のころ

学生考古学会の設立に先立って、福島市矢細工遺跡では、発掘調査の現地演習が行われ、県北地区の 7 校約 150 名が参加しています。遺跡からは縄文土器片などが出土し、福島県立安達高等学校や福島県立福島商業高等学校では調査成果を報告書としてまとめています。

昭和 30 年前後 福島県考古学会の発足のころ

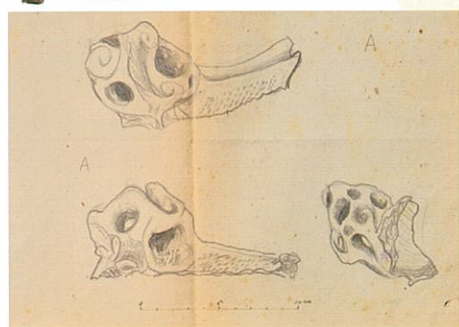
福島市上岡遺跡は、縄文時代後・晩期の集落跡です。昭和 27 年、果樹園の作業中に「しゃがむ土偶」（国指定重要文化財）が発見され、その周辺が発掘調査されています。

昭和 30 年代の高度経済成長期に入ると、開発に伴う遺跡破壊が深刻化し、福島県考古学会の会員が緊急発掘調査の最前線で文化財保護に携わるようになりました。

昭和 40 年前後 福島県史刊行のころ

檜葉町天神原遺跡からは、弥生時代中期の土坑墓と土器棺墓が多数見つかっています。土器棺墓は、下の写真のように土器二個体を上下に合口で重ねる特徴的なものです。

昭和 39・40 年に行った発掘調査の成果は『福島県史』にも掲載されています。



上：福島商業高等学校採集石鏃
下：福島商業高等学校報告書 スケッチ



土偶写真



土偶出土状況メモ



上：天神原遺跡出土土器
下：天神原遺跡土器棺出土状況写真

表紙の 1 枚

2021 年 11 月 6・7 日に開催した秋の特別体験「縄文土器・土偶クイズラリー」のようすです。たくさんの方が、まほろんに展示中の縄文土器や土偶を探してクイズラリーに挑戦してくださいました。両日ともアクアマリンふくしまによるアクアラバン（移動水族館）も開催。お子さん方の元気な声が響いた 2 日間でした。



伊達市荒屋敷遺跡 出土の磬

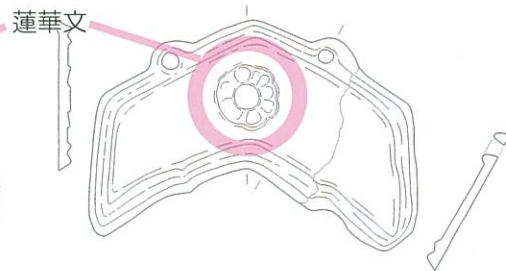
文：鶴見 諒平
(副主任学芸員)

磬という道具を知っていますか？これは仏教で使われる梵音具と呼ばれる道具の一種で、もともと中国で使われていた打楽器が次第に仏具として使われるようになったものです。日本では奈良時代頃から使われていて、今でもお寺で見ることができます。

福島県内の磬の出土例は、今回紹介する伊達市荒屋敷遺跡、喜多方市松野千光寺経塚から出土したものが知られる程度で、ほとんど見つかっていない遺物です。

荒屋敷遺跡出土の磬は鉄製です。X線写真から、表側の中央部分に蓮華文が確認できました。上部には台から吊り下げる紐を通す孔が2つあります。このような特徴は、平安時代～鎌倉時代頃の鉄磬に見られます。また、この鉄磬は鋳造品で、X線写真で見ると巣と呼ばれる空洞になってしまった箇所が白く見えています。

調査では、この磬と鉄製の香炉以外は仏教に関わる遺構や遺物は確認されていません。一方で、遺跡の北東にある光台寺には、正応二年（1289）の年号が刻まれた板碑があります。板碑は死者の供養のために中世に多く立てられました。これらの板碑はもともと荒屋敷遺跡近くで見つかったものが光台寺に移されたとされています。荒屋敷遺跡は出土遺物から13世紀から14世紀前半頃の遺跡と見られます。板碑に記された年代と遺跡の年代が近いことから、荒屋敷遺跡付近には何らかの仏教施設があった可能性が考えられます。



※白く見えるのが「巣」

荒屋敷遺跡出土の磬（左：実物 中央：X線写真 右：実測図）

まほろん森の塾 活動レポート

文：和知 千紘
(学芸員)

まほろん森の塾は、昔の暮らしや技術を体験することで、「生きる力」や文化財を慈しむ心を身につけることを目的とした体験学習です。毎年、小学4年生から中学生までを対象に塾生を募集しています。今年度は8名の塾生を迎えました。

年度ごとのテーマに沿った活動を行っており、今回は5回にわたって縄文土器をテーマにした活動を行いました。

縄文土器の観察を皮切りに、まほろん収蔵の資料を手本に土器づくりを行ったほか、土器の焼成の見学と野外展示でのクリの実や葉の観察、実際に土器を使った煮沸実験を行いました。煮沸実験では、縄文時代に食料として利用されていたクリの実をゆでる体験を行いました。

開館20周年記念式典・記念企画展開幕式当日には、塾生が製作した土器が常設展示室前に展示されました。

塾生は、土器の製作から使用までの一連の体験をすることによって、楽しみながら縄文人の暮らしの一部を学習することができました。「土器ってどうやってデザインしたんだろう」「粘土はどこから採ってきたんだろう」と塾生が想像しながら体験する場面もありました。



思い出まほろん

まほろん

開館の頃

話し手…本間 宏

(副館長兼
学芸課長)

聞き手…武熊 野の香
(学芸員)

開館から二十周年を迎えたまほろん。二十年前、福島県文化振興事業団と福島県教育委員会文化課との併任で開館準備に当たっていた本間副館長に、当時のエピソードをお聞きしました。

●開館記念式典はどのように行われたのですか？

本間 開館記念式典を行った七月十五日の午後一時頃は、気温が三十三度まで上がりました。正面玄関前にテントを張って来賓席を設けていたのですが、炎天下の照り返しがきつく、来賓の方々も汗を拭っておられました。式辞・あいさつ・施設紹介・来賓祝辞のあと、テープカットとお祝いのくす玉開きを行ってオープンとなりました。くす玉開きは白河一小、白河中央、西郷支援学校、白河旭高校の児童・生徒たち八人、オーピングファンファーレと記念演奏は白河二中吹奏楽部の皆さんがそれぞれ担当してく

れました。

●開館日には何人のお客様がいらしたのですか？駐車場は大丈夫でしたか？

本間 ご来賓を含め八百五十三人の方にお越しいただきました。まほろんは、県企業局の新白河ビジネスパークに接する一角にオープンしましたが、あの頃はまだ工場などが少なかったんですね。なので、敷地内駐車場が満車になって、さらに三百台を収容できる予備駐車場用地をお借りすることができ、大丈夫でした。

●印象深かったことはありますか？



本間 開館を待ちのお客様の行列ができていたのですが、あまりに暑かったので熱中症になったりしないか、とても心配でした。式典を早く終わらせて、冷房の効いた館内にこ誘導したいと気を揉んでいましたね。

オープン後は、館長の藤本強先生が、子どもたちにわかりやすく展示解説をされていたのが印象的でした。

●その後に開催した開館記念イベントはどのような内容だったのですか？

本間 まほろんのコンセプトを知っていたため、学校が夏休みに入った八月五日に開催しています。関根秀樹先生たちによる火おこし体験、加曾利貝塚土器づくり同好会の皆さんによる土器づくり体験、小菅将夫先生による石器づくり体験、平出美穂子先生たちによる縄文食体験、楠本政助先生による釣針づくり体験、尾関清子先生による縄文編物体験、渡部久子先生たちによる縄文髪型復元体験など、実験考古学の専門家の方々による7つのテントブースを設けました。先生方には、仮設ステージ上でも実演を披露していただきました。



●ステージではミニコンサートも行なったそうですね。

本間 はい、高城教育長さんと関根秀樹先生に「弓ぎり」の方法で火をおこしていただいたのを皮切りに、各時代を象徴する七種類の方法で発火した火を子どもたちが聖火台に灯してミニコンサートに移りました。オリジナル時報チャイムの原曲「ろろんまほろん」を白河五小の子供たちが合唱し、閉館チャイムの原曲「月夜のまほろん」ほか6曲を歌手のYaeさんに歌っていただきました。コロナ禍が収束し、再びこのようなイベントを開催できる日が来ることを祈っています。

編集後記

開館二十周年という記念の年も残すところ約二カ月となりました。私たちにとっては長く思える二十年という期間。出土品にとってはどうなのでしょう？開館当初から収蔵されている資料たちは、やっと収蔵庫の居心地に慣れてきた頃かもしれません。

まほろんの主な今後の予定

※各講座・講演会は事前申込制です。

※新型コロナウイルス感染拡大状況等により予定が変更となる場合があります。詳しくはお問い合わせ頂くか、まほろんのホームページをご覧ください。

1/22(土)から5/8(日) 企画展「戦後ふくしまの考古学」

2/13(日)、20(日) 実験講座「ガラスづくり」

定員 8名程度

1/13(木) 午前10時から申込受付開始

2/26(土) 第4回館長講演会「考古ニュースを解説する」

定員 40名 1/26(水) 午前10時から申込受付開始

3/5(土) まほろん 20周年記念講演会

「まほろんの20年とこれから」

「文化財を読み解き未来に伝える科学のチカラ」

「白河の歴史的風土」

「史実への迫り方ー縄文前期から慶長五年までー」

時間 10:30～16:00/ 定員 150名

会場 白河文化交流館「コミネス」小ホール

※往復はがきにて、参加されるすべての方の住所、氏名、電話番号を記載のうえ、まほろんまでお送りください。(2/10 必着、参加の可否は返信はがきにてご連絡)

まほろん
通信
vol. 82

令和4年1月26日発行

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(3月21日は開館/月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日)/国民の祝日の翌日(2月12日・4月30日は開館/土・日曜日に当たる場合は開館)/年末年始(12月28日～1月4日)
入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)

お問い合わせ



〒961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

fax 0248-21-1075

ホームページ

まほろん

検索

